

人気メニューの一つ「えびいも豚汁定食」(京田辺市興戸で)



## 障害者就労支援事業所 「さんさん山城」

(京田辺市興戸)

農家の後継者不足が続く中、障害者が野菜などの栽培から加工、販売までを手がけ、農業と福祉を組み合わせた「農福連携」に取り組んでいる。農業を通して地域活性化に寄与するモデルケースとして昨年12月、近畿農政局の「第1回近畿デイスカパー農山漁村(むら)の宝」に選ばれた。聴覚障害者を中心に、知

育てた農作物ランチで提供  
的・身体障害のある18歳から82歳までの31人が通う。交流スペース「コミュニティカフェ」は府の補助金2300万円を受けて改装し、昨年6月から5000円でランチを提供。「えびいも」も豚汁定食は、高級食材のえびいもが使われているとあって先着20食分がすぐに完売する。施設

2011年4月、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会が設立し、就労支援事業をスタート。京野菜や宇治抹茶の栽培、加工、販売を行い、農協に委託している。問い合わせは担当(0774・39・7113)。

## サポート

## 育てた農作物ランチで提供

者の藤永実さん(65)は「丁寧な作物栽培で売り上げを増やし、利用者の所得を増やしていきたい」として



近くの「ニコニコ薬局」店長 増田典和さん(89)「駅前商店街のために奔走する努力家。商店街のことをよく知っているけれど、決して大きな顔をしない。」

## 仲間から

趣味の合唱にも精を出していてパワフル。年齢では僕を目標にしていると言ってくれるけど、あふれる心意気、やる気に「僕も負けていられない」と刺激を受けています」



4月の100円商店街に向けて準備中。政一さん。「今度も盛り上げてい

## 格言

## プラス思考、勉強好き

50歳代になってから商売について教わるようになった経営コンサルタント船井幸雄さんの言葉。「いろいろな人の話に素直に耳を傾けて、良いと思ったら実行し、ピンチをチャンスと捉え、興味を持ったら学び、体験する」と理解している。

## お気に入り

## 蒔絵万年筆 家業への誇り

万年筆は、筆圧や手の勢いが文字に表れる味わいのある文房具として好きだ。この万年筆は、日本が誇る伝統技術「蒔絵」が施されているため、実用品というよりむしろ観賞用。蒔絵のトンボのデザインが気に入っている。「文房具で60年以上、身を立てさせても

らった証しみたいなもの」2013年秋に叙勲を受けたのとして購入した。「家業への敬意にそして孫に伝えてい」。そんな誇りとともにいいほしい一品だ。



## 蜷川実花さん 国際観光大使

「京都の

京都市は、街の界に向けて発信する国際観光大使として映画監督の蜷川を任命した。京都をライフワークに蜷川さんは「日本として、京都の四季をたい」と語った。大使は文化、分野で、国際的個人や団体を任る。蜷川さんは写真や映画作られ、2020年パリンピック理事も務める。

ピンクセンター「タウン舞鶴」で行われる府防犯設備士協会参加。高額の家電の場では、購入後に